

耐震診断の結果の公表

2023年4月27日現在

■保健所、税務署その他これらに類する公益上必要な建築物

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	八戸市庁本館	八戸市内丸一丁目1-1	庁舎	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{s0} = 1.10$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.53$			

■集会場、公会堂

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	八戸市公会堂・公民館	八戸市内丸一丁目1-1	公会堂	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年改訂版)	$I_s = 0.78$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.81$	耐震改修	実施済み (令和3年度)	

■体育館(一般公共の用に供されるもの)

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	八戸市体育館	八戸市大字売市字興遊下3	体育館	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} = 0.90$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.59$	耐震改修	検討中	1階から3階部分
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s = 0.57$ $q = 1.77$			屋根部分

■学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	八戸市立八戸小学校	八戸市大字売市字小待150	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.28 C _{TU} ・S _D =0.83			
2	八戸市立小中野小学校	八戸市小中野五丁目2-17	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.23 C _{TU} ・S _D =0.78			
3	八戸市立湊小学校	八戸市大字湊町字中道7-1	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.18 C _{TU} ・S _D =0.76			
4	八戸市立白銀小学校	八戸市大字白銀町字大久保道1-1	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.23 C _{TU} ・S _D =0.79			
5	八戸市立江南小学校	八戸市根城九丁目22-50	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.16 C _{TU} ・S _D =0.76			
6	八戸市立是川小学校	八戸市是川四丁目1	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.43 C _{TU} ・S _D =0.91			
7	八戸市立三条小学校	八戸市大字尻内町字三条目4-4	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.18 C _{TU} ・S _D =0.72			
8	八戸市立新井田小学校	八戸市大字新井田字館平20	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.28 C _{TU} ・S _D =0.79			
9	八戸市立第一中学校	八戸市吹上二丁目17-1	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.31 C _{TU} ・S _D =0.83			
10	八戸市立湊中学校	八戸市大字白銀町字右新井田13-2	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.20 C _{TU} ・S _D =0.74			
11	八戸市立根城中学校	八戸市根城五丁目11-42	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.20 C _{TU} ・S _D =0.73			
12	八戸市立市川中学校	八戸市大字市川町字赤畑34-2	学校	（一財）日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is/Iso=1.23 C _{TU} ・S _D =0.78			

■百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	さくら野百貨店八戸店	八戸市大字三日町13	百貨店	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=0.51$ $C_{T\cdot S_D}=0.34$	①耐震補強設計 ②耐震改修	①実施済み ②検討中	
2	カネイリ番町ビル	八戸市大字番町26-2	店舗	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.33$ $q=1.06$	①耐震補強設計 ②耐震改修	①実施済み ②検討中	
3	チーノ八戸	八戸市大字十三日町16	店舗	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=1.30$ $C_{T\cdot S_D}=0.67$	除却	工事中	1階から4階部分
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{so}=0.98$ $C_{T\cdot S_D}=0.62$			5階から8階部分

■ホテル、旅館

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	八戸ワシントンホテル	八戸市大字十三日町7	ホテル	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=1.01$ $C_{T\cdot S_D}=0.48$	耐震改修	実施済み (R元年度)	1階から4階部分
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.01$ $C_{T\cdot S_D}=0.64$			5階から9階部分
2	八戸パークホテル	八戸市吹上一丁目42-14	ホテル	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=1.09$ $C_{T\cdot S_D}=0.54$	耐震改修	実施済み (H29年度)	宴会棟部分
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.04$ $C_{T\cdot S_D}=0.66$			客室棟部分
3	八戸グランドホテル	八戸市大字番町14	ホテル	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_s/I_{so}=1.00$ $C_{T\cdot S_D}=0.50$	耐震改修	実施済み (H30年度)	高層棟部分 (A棟)
				(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.23$ $C_{T\cdot S_D}=0.76$			低層棟部分 (B棟)

附表：耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
	I	II	III	
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D \leq 1.25$	
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$	
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

- I. 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II. 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III. 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

【参考：用語の解説】

建物が保有する耐震性能は、構造耐震指標(I_s)という数値を算出して評価します。
 また、主に鉄筋コンクリート造の建物の第2次診断法や第3次診断法においては、構造耐震指標(I_s)を算出し、構造耐震判定指標(I_{s0})と比較する評価に加えて、地震等の水平力に対して耐える強さがあるか否かを $C_T \cdot S_D$ 値又は $C_{TU} \cdot S_D$ 値により評価します。
 なお、鉄骨造の建物の耐震性能の評価方法については、構造耐震指標(I_s)による評価に加えて、地震等の水平力に対して耐える強さがあるか否かを q 値により評価します。

- I_s (構造耐震指標) = E_0 (保有性能基本指標) × S_D (形状指標) × T (経年指標)
- I_{s0} (構造耐震判定指標) = 0.6 (耐震評定基本指標) × Z (地域指標) × G (地盤指標) × U (用途指標)
- $C_T \cdot S_D$ 又は $C_{TU} \cdot S_D$ = C_T (累積強度指標) × S_D (形状指標) 又は C_{TU} (累積強度指標) × S_D (形状指標)
- q (保有水平耐力に係る指標)：この値が0.5未満の場合は、 I_s 値が基準を満たしていても補強等が必要となる。
- Z (地域指標)：八戸市 1.0
- G (地盤指標)、 U (用途指標) 及び R_t (振動特性指標)：各 1.0